
鏡の世界

snow+

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鏡の世界

【Nコード】

N 8 4 3 4 A

【作者名】

s n o w +

【あらすじ】

とある店に入ったコナンたちは、ひょんなことから、” 鏡の世界 ” へ導かれる。そこにはコナンたちにそっくりな人物がいて…

鏡の中へ…（前書き）

不思議系（？）の小説を書きます。

友達と一緒に作るので、よろしくお願いします（＾－＾）v

鏡の中へ…

「ねえコナン君？晩御飯、何がいい？」

「じゃあー…、ハンバーグがいいなっ！」

一緒に帰る約束をしていたコナンと蘭は、学校帰りに夕飯の食材をスーパーまで買いに行った。

「おいっしいハンバーグ作ってあげるからね！」

「うんっ！」

買い物も終わり事務所へ帰るいつもと変わらない道のり。…のハズが、事務所から5キロ程手前だろうか。なにやら新しいお店が建っている。

「あれ…？蘭姉ちゃん！こんな店、前からあったっけ？」

「なかった…わよねえ？」

二人はその店の前で立ち止まった。

「あっ！可愛い♪」

蘭は窓から店の中を覗き、たくさんのアクセサリーに目をひかれた。どうやらココは、人形や小物やアクセサリーが売ってある雑貨店のようだ。

「入ってみよっか？」

「え？あ、うん。」

コナンはあまり雑貨に興味はないのだが、不思議と店に入りたいような気分になり、店に入った。

”カラン”

二人は店へ入った。店の中は色々な色の電気でライトアップされている。

「わー！可愛いね！」

蘭はアクセサリーに興味津々だ。その隣では、コナンが店を見回していた。

「（やけに鏡が多いな…）」

そう。壁ぞいの足元には、十五個程鏡が置いてあるのだ。そのとき――

「わっ！」

コナンは、一つの鏡に吸い込まれた。

「どうしたの？コナン君？」

コナンの声に気付いたのか、蘭はコナンが吸い込まれてしまった鏡の前に来た。

「コナン君…？キャ！」

とその時、蘭も鏡に吸い込まれてしまった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8434a/>

鏡の世界

2010年12月5日05時35分発行